

特集 小・中学校全国学力調査

今回の特集は、保護者の皆さんの関心が高い小・中学生の学力にスポットを当てます。今年の4月に行われた全国学力調査の結果と今後の対策のポイントをQ&A方式でお知らせします。

Q1 全国学力調査とはどのようなものですか？

A 全国の小学6年生と中学3年生を対象に国語と算数・数学の2教科で、それぞれ知識中心のテストAと活用中心のテストBの学力調査と生活習慣等のアンケートが行われるものです。
今回は、これまでの全員参加方式から抽出方式に変更

されました。県内では小学校127校(全体の42.3%)、中学校91校(全体の66.9%)が調査の抽出対象となりました。抽出対象とならなかった学校も、同一問題の提供を受けて調査を利用できることから、県内全ての学校が参加しました。

Q2 大分県の子どもの学力はどうだったのでしょうか？

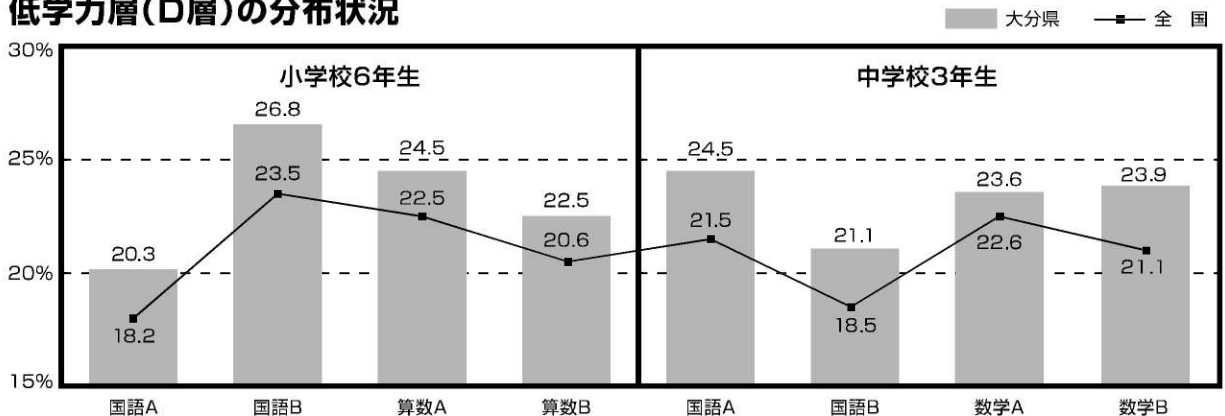
A 残念ながら全ての科目で大分県の平均正答率は全国平均を下回りました。全国の中での位置づけは、抽出調査に変わったことから正確な順位は出ませんが、小・中学校ともに全国40位であった昨年度と同程度の位置づけです。



Q3 全国学力調査から何が分かりましたか？

A 国が学力調査の結果を正答率が多い順に概ね4等分(A、B、C、D)に分割しています。低学力層と位置付けられるD層をグラフにしたものが下図です。大分県の子供たちは、いずれの科目でも全国平均より約2ポイントこのD層の割合が高いことが分かりました。

低学力層(D層)の分布状況



Q4 他にはどんなことが分かりましたか？

A 生活習慣等の児童生徒のアンケート調査から、次のことが分かりました。
① 予習・復習を行っている小・中学生の正答率は全国的に高い傾向にある。一方、大分県では、予習をしている小・中学生は全国に比べて少ない。

② ノートを丁寧に書いている小・中学生の正答率は全国的に高い傾向にある。一方、大分県では、ノートを丁寧に書いている小・中学生は全国に比べてやや少ない。
③ 家庭で学校の出来事を話す小・中学生や規則正しい生活をする小・中学生は全国・大分県ともに学力が高い傾向にある。

Q5 今回の調査結果から、どのようなことが課題と考えていますか？

A 大分県の小・中学生は全国より
○ 低学力層の割合が高い
○ 予習をしている小・中学生が少ない
○ ノートを丁寧に書いている小・中学生が少ないことから学習につまずいている子どもたちが全国より多く、こ

のつまずきの解消が大きな課題であると考えています。

このため、まずは、学校でのつまずきの解消を強化することが重要であり、あわせて、家庭における取組の充実が必要です。